2022 年第 1 回 IEEE Japan Council 理事会議事録

日　　時： 2022 年 3 月 18 日(金) 13:30～17:45
場　　所：住友電気工業株式会社　東京本社 ホール　およびオンライン
出 席 者：橋本 JC Chair、高村 JC Vice Chair、重松 JC Secretary、前原 JC Treasurer、小川 札幌支部 Secretary/Treasurer、山田(博) 仙台支部 Chair、佐藤(敏) 信越支部 Chair、中野 東京支部 Chair、小林 東京支部 Vice Chair、Chaki 東京支部 YP Chair、稲森 東京支部 WIE Chair、片山 名古屋支部 Chair、畑 関西支部 Chair、松居 関西支部 Vice Chair、西村 四国支部 Treasurer、上原 広島支部 Chair、庄山 福岡支部 Chair、末松 COC Chair、大野 SAC Chair、桑原 AC Chair、河東 IPC Chair
尾上 Past Chair、滝嶋 Past Secretary、羽渕 Past Treasurer、島村 HC Vice Chair、奥村 LRSC 委員、佐藤(高)MD Coordinator、山田(剛)YP Coordinator、高野 LM Coordinator、鈴木 EA Coordinator、野田 WIE Coordinator、福田 IEEE 2021 Past President、小菅 2020 IEEE Technical Activities Past Vice President、南 MGA ARC Past Chair、西原 R10 Past Director、矢野 R10 WIE Committee Chair
（順不同）
オブザーバ：Japan Office 百武氏、Japan Office 梶川氏
事 務 局、幹事会社事務担当

議題：

1. 前回理事会議事録の確認（審議）	資料（1）
2. 2022 年 Japan Council 理事会構成	資料（2）
3. 2021 年 決算報告・監査報告	資料（3）
4. 2022 年 活動計画および 2022 年予算（報告）	資料（4）
5. 2022 年 中間会計報告	資料（5）
6. R10 Meeting 参加報告	資料（6）
質疑応答（議題 1～6）	
7. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告	資料（7）
7－1 Chapter Operations Committee	資料（7－1）
7－2 Student Activities Committee	資料（7－2）
7－3 Awards Committee	資料（7－3）
7－4 Industry Promotion Committee	資料（7－4）
8. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告	資料（8）
8－1 Long Range Strategy Committee	資料（8－1）

8－2 History Committee　資料（8－2）

質疑応答（議題 7～8）

9. Coordinator 前回理事会以降の活動報告　資料（9）

9－1 Membership Development　資料（9－1）

9－2 Young Professionals　資料（9－2）

9－3 Life Members　資料（9－3）

9—4 Educational Activities　資料（9－4）

9—5 Women in Engineering　資料（9－5）

質疑応答（議題 9）

10. 2023-2024 年期 Japan Council 役員選挙候補者推薦のお願い　資料（10）

11. 各支部 2022 年活動計画および前回理事会以降の活動報告　資料（11）

11－1 札幌支部　資料（11－1）

11－2 仙台支部　資料（11－2）

11－3 信越支部　資料（11－3）

11－4 東京支部　資料（11－4）

11－5 名古屋支部　資料（11－5）

質疑応答（議題 11-1～11-5）

11－6 関西支部　資料（11－6）

11－7 四国支部　資料（11－7）

11－8 広島支部　資料（11－8）

11－9 福岡支部　資料（11－9）

質疑応答（議題 11-6～11-9）

12. その他　資料（12）

12－1 Japan Council Outstanding Volunteer Award の新設について　資料（12－1）

12－2 周年記念イベントに関する意見集約と今後の進め方　資料（12－2）

12－3 過去の東京支部 FNC 活動について　資料なし

12－4 R10 Robotics Competition について　資料（12－4）

質疑応答（議題 12）

[参考] IEEE Japan Council メール審議記録

[参考] 支部別会員数/支部別 Society 会員数の推移

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

議事：

0. JC Chair 挨拶

JC Chair から開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認【審議 ⇒ 承認】 資料（1）

報告：JC Secretary

前回理事会議事録について、異議なく承認された。

2. 2022 年 Japan Council 理事会構成 資料（2）

報告：JC Secretary

仙台支部の Chair が交代した。

3. 2021 年 決算報告・監査報告 資料（3）

報告：JC Treasurer

2021 年の収入は、ドル高もあり予算より増えている。支出は、コロナ禍の状況で各種会議や活動がかなり制限され、計画を下回る結果となった。2021 年は支出が収入を下回った。

4. 2022 年 活動計画および 2022 年予算（報告） 資料（4）

報告：JC Secretary(活動計画) JC Treasurer(予算)

JC Secretary：2022 年 活動計画は、前回の理事会で提示し承認頂いている。

JC Treasurer：支出は、昨年のコロナ禍よりもアクティブな計画となったものが反映されている。繰越金は、前年の繰越金とほぼ同じで見込んでいる。

5. 2022 年 中間会計報告 資料（5）

報告：JC Treasurer

2022 年が始まったばかりで、メダル作成費と事務局費が出ている他は動きがない。

6. R10 Meeting 参加報告 資料（6）

報告：JC Secretary

2/26-27 に Zoom によるハイブリッドで開催。R10 では昨年の 1 月比で会員が増えている。特に Undergraduate Student については、33.8%増。全体で 13%増。WIE のメンバーが 50%近く増えている。R10 を North Asia と South Asia、Pacific に分割する案が検討されている。決定事項ではなく、決定されたとしても実現するのは 6-7 年先となる。Past President から R10 の 2 分割に備え費用留保の必要性が指摘された。ただし Member Value を損なわないことが前提。本部 Executive Dir からの報告で、IEEE 全

体の会員は 3.5%増。昨年は 4.4%減だった。Undergraduate Student は 23.4%増。MGA の Vice Chair と Managing Director からの報告では、R10 内で日本の会員数は 5 番目。Higher Grade で 4 番目。Student では 10 番目。Senior Member のリテンションが高い。Nomination and Advisory Committee からは R10 の Next-Director Elect のスケジュールが示された。韓国の方と、JC Chair が候補となっている。Graduate Student 以上の会員の方は投票権があるので投票をお願いしたい。R10 の Award については、R10 の Best Membership Retention Section Award に関西支部と福岡支部、WIE に関して仙台支部、個人としては、Outstanding Volunteer Award に JCHC Chair がそれぞれ選出された。

所感として、Higher Grade Member を増やしてゆくことがリテンション、存在感の面からも必要。Student、WIE のメンバーが少ないので増大してゆくこと、President が SNS を設けているので SNS の活用も必要であろう。

■質疑応答（議題 1-6）

なし

7. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告　資料（7）

7－1 Chapter Operations Committee　資料（7－1）

報告：COC Chair

今年度は 6 月と 11 月に COC ミーティングを開催予定。コロナウイルスの状況が少し落ち着いたおかげで、2020 年度とほぼ同様の結果になると見込んでいる。予算枠を超えた場合は報告予定。Award 登録は現在 24 件。昨年は合計 80 件程であり今後増えてくる見込み。昨年度から Award 登録や Chapter 支援費申請登録を Kintone へ移管し、効率が上がっていると感じる。COC 業務は、まず東京支部に移行を予定しているが今期の役員での対応は難しいので、来期の役員となる 2024 年にスタートとしてスケジューリングしている。事務局の負担軽減もこれから図っていきたい。

7－2 Student Activities Committee　資料（7－2）

報告：SAC Chair

12/21 に SB 向けにアニュアルプランとアニュアルレポート提出方法の説明をするオンラインセミナーを開催した。インダストリーコラボレーションセッションに対して学生が何を期待しているかアンケートを取ったところ、就職やインターンシップに興味を持っていることが判明した。幹事会社の他に地元企業の参加が学生の希望に挙げられており、支部活動の参考になる。何も提出せずイベントに参加しない SB もあるが、今後ケアを検討している。

マンガプロットコンテストは優秀作品をマンガ化するもので、英語版と日本語版を

WEB に公開した。作品保護のため、メールアドレス等を登録して頂くシステムにした。広報手段として eNotice や日本の学会に依頼した結果、閲覧者は企業や大学の教師、大学生が多かったが高校教師や保護者もいた。約半数が IEEE 非会員で、一定の効果があったと思われる。マンガプロジェクトは今年度も実施したく、予算を申請した。SSR の学生代表選出が求められているが、未だ決まっていない。決定した場合、JC SAC と R10 それぞれに報告をして欲しい。

7－3 Awards Committee　　資料（7－3）

報告：AC Chair

AC は IEEE コーポレートレベル、インスティテュートレベルの Award を支援する活動を行っている。本部の委員の方々の情報を把握し、情報交換および活動支援することが重要である。Award 委員のリストおよび情報の入手方法、アップデート方法は整理中。

AC の体制見直しについて、三菱電機の浅井様に次期 Chair をご担当いただくことで準備中。今後の予定は、秋に全体会合を実施予定。本部委員に関する情報は、工夫をしながら集める必要がある。体制見直しに向けて検討を進めており、Garoon の AC 関係の理事会資料等を見やすく整備している。Fellow の受賞者数は以前と比べて少し増加している。

7－4 Industry Promotion Committee　　資料（7－4）

報告：IPC Chair

2/21 に第 1 回の委員会を開催し、年間計画について議論した。今年の MAW は四国にて開催予定。10/7 に MAW が開催予定、翌日には SYWL も開催する。日本から IEC へ委員を出してはどうかとの提案に対し、IPC　Secretary が委員に立候補し、就任した。今後は IPC Secretary から内容を報告し、IEC との連携が可能になる。IPC のミッションについて委員会にて議論があった。2023 年の MAW が信越支部で開催され、その時点ですべての支部を一巡する。今後の開催形式について検討した結果、新たな形式で継続を望む意見があった。JC のホームページに IPC 活動ページを追加し、活動内容を紹介していきたい。MAW についても見ることができるよう整備し、ミッション等を掲載していく予定。企業会員向けの講演会の開催を予定している。

8. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告　　資料（8）

8－1 Long Range Strategy Committee　　資料（8－1）

報告：LRSC Chair

昨年、Fellow 申請者向けの Webinar を 2 回開催した。1,2 回目ともに 100 名以上参加し、継続を望む声があった。今年も 10 月から 12 月の間に開催したい。LRSC 委員会を 2 月に開催した。3 月に大阪で開催された Life Tech2022 の JC ブースにて、Fellow 申請勧誘チラシを配布した。JC の Fellow ページを大幅に内容刷新した。

電子情報通信学会や映像情報メディア学会等の IEEE と近い他学会の Fellow に IEEE Fellow 申請を勧奨したく、各学会に打診している。JC Coordinator 選出について LRSC で議論した結果、「次期 Coordinator について、本人の実績や希望を基に現 Coordinator が責任を持って選出する。選出された候補は JC 理事会にて承認を得る。本選出方法に不具合が生じた場合は関係者ですみやかに協議し、変更できるようにする。」とした。

Fellow 申請を希望する方が具体的な進め方が不明な場合、質問がしたくてもできない。そのような方々のために、非公開で質問や相談ができるようなシステムを作りたい。Fellow 申請駆け込み寺（仮称）という施策を考えている。まず、相談者が WEB フォームで相談内容を記入し、自動的に各 Society の世話人の方々にその内容が伝わるというもの。このようなシステムが確立できれば、相談者にフィードバックができ、実際に Fellow になる方々が増えると思う。是非 Society や Chapter の方々に世話人となる方のご紹介や手を挙げて頂くご協力をお願いしたい。

8－2 History Committee　　資料（8－2）

報告：HC Vice Chair

体制は 2021 年度から変更が無いが、東京支部 HC の Vice Chair が河東様に交代となった。HC Chair が R10 Outstanding Volunteer Award を受賞した。HC の委員会は情報共有やマイルストーン申請の活性化を図ることを目的に開催しており、2022 年は札幌支部が幹事となっている。コロナの感染状況によってはオンライン開催も検討する。マイルストーン申請状況については、2021 年度は 2 件の登録があった。2022 年度は QR コードが BoD の認証を完了しており、贈呈式を調整中。

■質疑応答（議題 7-8）

・7－1 Chapter Operations Committee

JC Secretary：今年の執行状況は年初のスタートとしては良いのか。感触を教えて欲しい。

COC Chair：昨年並み。

・7－2 Student Activities Committee

JC Secretary：マンガプロジェクトの補足説明をお願いしたい。

SAC Chair：プロジェクトの目的は、工学の楽しさを多くの人に伝えることと、IEEE を知らない人達（高校生や高専等）にアウトリーチすること。研究室に入る前の学部生が IEEE を知らないという状況を打破できるような雰囲気のプロジェクトである。

実際に高校や高専からの問い合わせがあり、多くの方に見て頂いた感触がある。日刊工業新聞に掲載頂いたり、内閣府とも打合せをするなど広報にも力を入れ、成果を「リカジョ育成賞」に応募している（現在結果待ち）。IEEE 内でも動きを広げるべく、JC Chair

を経由し全世界の WIE で実施しようという話や、YP や SIGHT にも声を掛けてグローバルに予算を取れないか打合せをしている。英語のマンガについては IEEE USA eBooks に掲載。当初の想定よりもインパクトが大きく、今年度も実施したい。学生であれば非会員でも応募を受け付けて、IEEE に入会するきっかけとなれば良い。学生に夏休みの時間を取ってもらうため 9 月投稿を締切としたい。

WIE Coordinator：グローバルだけでなく、国内の WIE としても協力したい。

SAC Chair： WIE 賞のようなカテゴリを作ってもらえればよい。

WIE Coordinator : 賞を設けるほか、女性に向けたメッセージを作るなど、若年層をどのように広げるかという問題は WIE でも抱えている。その問題に対して非常に良い試みだと思うので、具体的な相談をしたい。

MGA ARC Past Chair：マンガプロジェクトは国内 IEEE の Section や Council の活動に役立つとは感じられない。今年は昨年制作したものの活用や評価に重点をおいた活動をすることを提案したい。

YP Coordinator：若年層にとってマンガは馴染みやすいコンテンツだと思う。文書や HP を見て IEEE の活動や理系の良さを知ってもらうのは限界がある。違うアプローチで理系の良さを伝える切り口となるのは良いと思うので、YP としても協力する。

JC Chair : マンガプロジェクトがどのような効果を生み出すのか、評価しなければならない。このプロジェクトは IEEE の重要ミッションでもあるアウトリーチに効果があると思う。昨年の段階では試験的に開始し、学生会員にも周知ができていなかった。コンテンツが揃った状態で Call for plot を行い、どのような反響があるか見極めたうえで評価をする形としたい。

Past Chair : 以前の理事会で提案があった際に目的を記載していたと思う。その目的に対して、どのような結果となったかを共有して欲しい。どの層にどれほどの効果、宣伝効果があったのか。

SAC Chair：提案時の 5 つの目的について。1 つは「マンガの原案を学生に作成してもらうことで、自身の勉学や研究、将来の夢について考える機会を作ること」。マンガ制作の過程において技術的精査を IEEE の先生方に尽力頂いた。「マンガを活用して工学の楽しさを伝える」点は、WEB 公開で実施中。「低学年に IEEE を知ってもらう」という目的は、本来は登録者の所属等の細かいアンケートを取った方が良いが、項目を増やすと閲覧に直接繋がらない点もあり、マンガプロジェクトのメンバーで協議中。このコンテストをきっかけに「IEEE を知ってもらい、入会して頂く」目標に対しては閲覧者の半数が IEEE 非会員であり、日刊工業新聞に掲載された旨を踏まえると IEEE のプレゼンスは向上したと思う。「IEEE 活動を世界に発信する」目的は、WIE にてグローバルに広げていくことになった。徐々に世界に広げていきたいと思う。

JC Chair： MGA ARC Past Chair からモーションがメイクされ、COC Chair からセカンドされた。動議が発生したということで議論頂き、特に意見が無ければ投票に移りた

い。

名古屋支部 Chair： WEB サイトを見たが、ダウンロードするためにはメールアドレスを入力する必要があるにも関わらず、数百件の登録があったことは費用対効果として大きいと感じる。特に非会員にアクセス出来ていることは大きい。英語版は登録無しでダウンロードできるため、もっと読者がいると思う。日本版も登録無しで閲覧可能にすると宣伝効果として大きいと思う。

SAC Chair：IEEE USA に掲載されたのは最近のこと。日本は数百人という多くがダウンロードしている。登録必須は、適切な時期に外す予定。外すと統計的データが取れなくなるのでトレードオフは今後検討予定。

WIE Coordinator：予算を掛けて良いと思うが、もう少し安くする方法があると思う。例えばプロに依頼するのではなく大学生に依頼したり、大学や研究所等の外部に声を掛け、制作費の一部を共催という形で予算を出して頂くなど。今後は修正しながら進めて行くことで審議するのか、もしくは既に決まっている予算も含めて審議するのか、明らかにして欲しい。

JC Secretary：予算は審議を頂く必要があると考えている。WIE や YP、海外等と協力して分担し、予算を超えない範囲で前に進めていきたい。

COC Chair：単年で評価するのは難しい。3,4 年経過した時点でこのコストパフォーマンスで考えて是非を含めて評価するのが大事ではないか。伸び代があると思う。

MGA ARC Past Chair：今回の動議は、マンガプロジェクト自体の反対ではなく今年も予算を費やしてマンガを制作するかの点で賛成/反対を取って頂きたい。動議の提案者は別の方にお願いしたい。

JC Secretary：動議の提案者は Secretary となり、セカンドは COC Chair とする。今年の予算を超えない範囲でマンガプロジェクトを進める件について審議したい。

投票の結果、賛成 16 票、棄権(欠席)1 票となり、本件については予算を超えない範囲でマンガプロジェクトを実施することが承認された。

・7－3 Awards Committee

AC Chair：Chair 交代について、理事会で承認手続きが必要になると思う。次期 Chair の候補は、三菱電機の浅井様。AC Member としてご活躍頂いており、本部の Committee にも参加されており適任であると思う。ご本人からも了解を得ており、コンタクトを取り始めている。準備の都合上、早く決定したいので審議をお願いしたい。

本提案に対する投票の結果、賛成 17 票、欠席 0 票、棄権 0 票となり、承認された。

・8－1 Long Range Strategy Committee

EA Coordinator：JC Coordinator 選出の基準変更に関して、「責任を持って」との文言を外して頂きたい。Coordinator は JC が任命と認識しているので、違和感がある。また、選出基準の改善について JC Secretary からヒアリングを受けたが、他の Coordinator の回答がどのようであったかシェアされていない。少なくとも基準変更の文言を規定するまでのプロセスを、各 Coordinator には明らかにして欲しい。

JC Secretary：EA Coordinator と合意した内容を他の Coordinator には周知し、異議が無かったため LRSC にて審議した。

JC Chair：最終的には、JC が任命するという形式にする必要がある。

LRSC Chair：「責任」という文言が「任命する責任」と「選出する責任」とで混同している。ここに記載の「責任」は候補者を選出するまでの責任と解釈すれば良い。

JC Secretary：次期 Coordinator の選出については現 Coordinator が日頃の活動をよく理解している。もし断られる場合があれば役員から依頼することも可能。この場で合意したいことは、次期 Coordinator 選出を現 Coordinator に依頼したいことなので、このような文言にした。

EA Coordinator：理解した。長い時間が経過して選出基準を見ても、齟齬が生じない形で残すと良いと思う。

名古屋支部 Chair：次期 Coordinator 候補は、現 Coordinator が責任を持って理事会に推薦する。あくまで候補の推薦であり、Coordinator の任命ではない、としてはどうか。

JC Secretary：推薦された人を任命をするのは JC 理事会のため、良い提案を頂いたと思う。

EA Coordinator：それで問題ない。

HC Vice Chair：Fellow 申請駆け込み寺の詳しい説明をお願いしたい。Fellow 申請を希望する相談者は、まず Senior Member であることが条件。試験的に取り組むのか、もしくは恒常的な活動項目になるのか伺いたい。

LRSC Chair：駆け込み寺はまだ案の段階で、相談を受ける方々を集めなければならないが、確立できれば非常に良いサポートになると思う。Fellow 申請者は Senior Member であることが必須であるが、Fellow に申請する方であればご存知であるはず。

HC Vice Chair：相談者はメンバーですら無く、Senior Member を希望する場合があるかもしれない。非常に良い支援になると思う。恒常的な活動項目にしてはどうか。

LRSC Chair：Senior Member 申請については LRSC では取り上げておらず、既に MDC 等が Senior Member について活動しているので、JC としてサポートする。

9. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

9－1 Membership Development　　資料（9—1）

報告：MD Coordinator

今年度の MDC メンバーは、仙台支部の MD Chair が交代となった。各支部でシニアメダルの授与方法や効果的な活用方法を今後も議論し、MD 活動を強化するため Senior Member 昇格および Fellow 昇格に関する WEB ページのリンク切れに対応をしている。今年度も WEB ページのメンテナンスを継続していく。メンバーシップのリテンション維持を目的にリニューメールを送信している支部もある。支部間で情報共有を行い、連携を強化する。今年度は MD 会議を 2 回予定しており、できれば対面開催を行いたい。企業のメンバーを増やすため、関西支部でマイルストーン講演会を実施した。その際、JC メーリングリストでの案内、IPC や HC 等でメンバーの皆様に声を掛けて頂いた。

9－2 Young Professionals　　資料（9－2）

報告：YP Coordinator

今年の活動の目標は、Section 間の情報共有と YP 主要メンバーの獲得。Section 間の情報共有は、「YP Meet」で Section の Chair や役員が集合し、今年の活動予定やこれまでの活動内容を情報共有した。YP の主要メンバー獲得は、今年の 5 月に広島、四国、福岡のジョイント YP の新規立ち上げを考えており、新規メンバーを 4 人獲得でき、あと 2 名で立ち上げが可能な段階になった。四国、広島、福岡 Section の Chair の方々にもご協力をお願いしたい。SYWL についてプレキックオフをした。次回の理事会では明確な内容が報告できると思う。名古屋 YP のワークショップの内容はデータサイエンスと python という技術的な勉強会であったが、エンジニアを繋ぐ「connpass」という支援プラットフォームを使用して広報した結果、参加人数 18 名のうち 14 名が IEEE 非会員であった。この切り口でイベントを広報することにより、IEEE 勧誘が可能ではないかと考えている。eNotice だけでなく、この形式活用を模索していきたい。

9－3 Life Members　　資料（9－3）

報告：LM Coordinator

各 LMAG の主催イベント情報を共有し、互いの参加を促すことは有効であった。徳島で YP 主催の SYWL ワークショップ開催予定に積極的に協力していく。LMAG 関西の技術懇話会(オンライン)に参加。30-40 名の参加で、非常に自由で和やかな雰囲気であったため、オンライン形式の開催は継続して行うのが良い。各支部の Life Member の状況は、福岡支部設立にあたって鍵となる人が見つからず、四国支部については LMAG が 6 人いるがこちらも設立の鍵となる人が見つかっていない。どのような形式で設立できるか、SYWL の際に話を伺いたい。四国と広島が共同で LMAG を設立するのもひとつの考え方であるが、四国・広島支部の状況は各 Chair からもメールで様子を知らせて欲しい。

9－4 Educational Activities　　資料（9－4）

報告：EA Coordinator

前回理事会以降、2021 年に Engineer Spotlight を 1 回開催した。2022 年 2 月に第 23 回 Engineer Spotlight を開催し、ロボットに関する研究として小菅氏に講演頂いた。第 24 回は理研 仁科加速器科学研究センターの上坂氏に講演いただき、高校生向けの施設見学も行った。ホームページを制作中であり、支部の情報ページも検討している。JC として EA 活動を俯瞰できるページを作成し、各支部 EA Chair がスプレッドシートに活動を記入すると反映される形式で蓄積していく。2022 年の活動計画は支部の特徴やリソースを踏まえて考えている。R10 の Reaching local fund は予定通りの 200 ドルを入金頂いている。今年度の年間計画では、Engineer Spotlight を今期も数回開催する。

9－5 Women in Engineering　　資料（9－5）

報告：WIE Coordinator

SYWL の事前打合せに出席し、WIE Coordinator として引き続き準備に協力予定。3/9 は東京信越 WIE 主催のオンラインコーヒーブレイクに参加した。今後もこのような活動に参加し、各支部 WIE に展開していきたい。WIE の各 Chair が入ったステアリングがあると良いと議論があり、各 Chair と相談しながら体制作りを考え確立を目指したい。WIE25 周年に国内でも連携すべく、今年の後半に何か活動することを考えている。各 WIE Chair の方々、JC Chair、R10 WIE Committee Chair にも意見を伺いながら 25 周年を盛り上げ、会員増に繋げたい。

■質疑応答（議題 9）

・9－5 Women in Engineering

JC Secretary：WIE25 周年は是非頑張って欲しい。

Past President：なるべく予算が掛からない方法で、楽しく考えて欲しい。

WIE Coordinator：グローバルと連携することは大事な視点なので、考えたい。

10. 2023-2024 年期 Japan Council 役員選挙候補者推薦のお願い　　資料（10）

報告：Past Secretary

次期 JC 役員を決定するためのプロセスを本日より開始。運営細則に準ずると、Voting Member、Standing Committee Chair および支部代表、JC Officers、JC 理事会承認理事にそれぞれの役職の推薦を依頼したい。現時点で内諾を取る必要は無いが、メーリングリスト宛に所属と連絡先を送って欲しい。推薦を依頼する方々には、何らかの形で返信を頂きたく、NC に一任という回答でも良い。依頼についてはメールで送信予定。Secretary と Treasurer は JC と東京支部とを兼ねることが続いているのでご考慮願いたい。

11.　各支部 2022 年活動計画および前回理事会以降の活動報告　　資料（11）

11－1 札幌支部　　資料（11－1）

報告：札幌支部 Secretary/Treasurer

3/3 に第 1 回理事会と総会を実施。例年は受賞者へ賞の授与を総会で行っているが、コロナウイルスの影響で中止となった。第 2 回理事会は 2022 年 11 月を予定。電気・情報関係学会北海道支部連合大会が北海学園大学で開催予定であり共催する。

IEEE Sapporo Section Best Paper Award は Best Paper Award 1 名、Encouragement Award 3 名の計 4 名に授与している。昨年は Best Presentation Award 2 名、Encouraging Prize 4 名の計 6 名。会員数増強の施策は、新入会 Student Member に対する学会活動支援を行っており、昨年は 16 名の学生を支援した。IEEE 主催の国際会議で学会発表支援も継続して実施予定。8 件の学術講演会、シニア昇格メダル授与や YP 表彰を予定。2021 年の決算は収支がほぼゼロとなり、2022 年予算についても昨年とほぼ同額となる。

11－2 仙台支部　　資料（11－2）

報告：仙台支部 Chair

4/18 に年次総会をオンラインで開催予定。インターマグのカンファレンスが仙台に誘致できたので、それに関連する講演会の開催を検討中。WIE 設立から 5 周年となり、記念イベントを 4/23 にオンラインで開催予定。内容はメンタルヘルスの講演会や Basabi 氏の特別講演、活動貢献賞贈呈等の交流会を企画している。3 月に LMAG 講演会を開催する。設立 25 周年の記念事業準備を行っている。決算関係は、今年から従来の口座と CB 口座を使い分けて管理していく。

11－3 信越支部　　資料（11－3）

報告： 信越支部 Chair

2022 年の活動計画は講演会や講習会を予定している。毎年開催している電子情報通信学会・信越支部大会および電気学会・東京支部新潟支所大会において IEEE Session を開催し、発表に対して Award の選考、授与を行っている。学生メンバーを増援するため、昨年に IEEE Shin-etsu SSB Poster Session を開催し、学生会員の交流や新規学生会員の獲得を目指している。MAG-33 Shin-etsu の活動は Session と Chapter を連携して活動予定。Senior Member 増員に向けて、Senior Member や Fellow のメーリングリストを作成し、積極的に推薦をして頂く活動を行っていく。役員会は計 4 回開催予定。

11－4 東京支部　　資料（11－4）

報告： 東京支部 Chair

第1回理事会を3/10に開催し、併せてLMAG総会、支部総会、新Fellow表彰式、講演会も行った。YPおよびLife Memberも複数回活動を行っている。WIEは3/9に国際女性デーに合わせてオンラインコーヒーブレイクが開催された。東京支部では2022年1月付で11名がFellowに昇格し、3/10の新Fellow表彰式では現地会場に4名が出席した。1/31にTokyo Bulletinを発行し、R10 First IssueにLMAGの投稿が掲載された。ホームペー

ジの応答速度改善の作業は完了。2021年のSenior Memberの昇格者数は46名。在籍年数ピンバッジを3月に送付する予定。Joint Chapterの運営支援として、MOUの承認を2件行った。

11－5 名古屋支部　　資料（11－5）

報告：名古屋支部 Chair

3/26 に役員会拡大理事会を開催予定。東海支部連合大会にて学生奨励賞授与を行い、国際会議研究発表賞の授賞式を 3/26 に行う。名古屋支部優秀学生賞は最終的な調整をしている。講演会、研究会国際会議など 6 件に対して協賛。名古屋 YP ワークショップは多くの非会員が参加し、オンラインならではのメリットがあると感じた。今後は共催行事を 4 件準備中で、東海支部大会の実行委員長から女性という切り口で何か企画ができないか打診があった。IEEE 名古屋 Section の WIE として、企画をやって頂く可能性がある。マイルストーン申請(QR コード)は第 2 クオーター以降で贈呈式ができるよう準備中。QR コード以外のマイルストーンは、明確になってから報告予定。

■質疑応答（議題 11-1～11-5）

なし

11－6 関西支部　　資料（11－6）

報告：関西支部 Chair

2022 年も理事会を 6 回開催予定。関西支部では Fellow クラブを設立する案が NC から出ている。関西支部 Fellow の方々を集め、Fellow に推薦する人を誰にするか議論する内容で、設立を進めていきたいと考えている。表彰関係では支部活動や技術分野発展に貢献した大学や研究所、企業の若手会員 1 名に YP 賞、英文学生論文を発表した優秀者に学生研究奨励賞を授与。また。Senior Member 昇格者 19 名にメダルを授与した。Fellow 昇格 3 名の技術講演会はハイブリッド開催となり、2022 年も 5 回程度講演会を企画している。1/25 にマイルストーンの講演会を開催し、企業が興味を持って相談に来たケースがあった。今後もこのような形式で企業の方を IEEE 会員に呼ぶことができればと考える。

11－7 四国支部　　資料（11－7）

報告：四国支部 Treasurer

令和 4 年度電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会の会期中に Committee Meeting、Technical Conference Meeting 等を実施予定。優秀論文を発表した学生に対し優秀発表賞、英語発表奨励賞を表彰する。MAW を 10/7 に開催予定。各 Committee の活動計画は MD と SAC が連携し、Student Member の増員を図る。Chapter 連携では CAS 四国 Chapter と EMB West Japan Chapter との連携を強化する。学生の英語プレゼンテーシ

ョン力向上のため、ネイティブスピーカーの英語講師による勉強会を開催する。SB 設立済もしくは設立を見込んでいる大学へ IEEE SB リーダーシップトレーニングワークショップへの参加を促す。Senior Member 候補者をリストアップし、積極的に支援の強化を行う。EA は若者向けの教育的要素を含んだ講演会を実施し、Section History は支部設立からの経緯について情報整理を行う。WIE は四国、福岡、広島支部間の女性会員や学生間の交流を深める。予算案はマイナスだが、例年通りだと結果的にはプラスとなる予定。

11－8 広島支部　　資料（11－8）

報告：広島支部 Chair

1 月に総会を実施し、昨年の事業報告と今年の事業計画、予算について承認された。昨年は MAW2020 の企画運営に関する貢献として、広島工大の浜崎先生に功績賞を授与し、広島支部学生シンポジウムの各賞を授与した。浜崎先生には MAW 広島に掛けた思いを総会の際にご講演いただいた。ICIET2022 をオンライン形式で島根大学で開催する。国内学会への講演は例年通りで、今年も第 24 回学生シンポジウム HISS(11 月末～12 月初旬開催予定)の企画をスタートする。理事会は 4/8 以降に 4 回実施予定。今年は会員数増加に向けて新しい表彰の検討や Senior Member、Fellow にも力を入れていきたい。広島支部 25 周年記念イベントは独自開催を予定している。予算案は繰越金が多くなっているが、周年記念イベントや各種イベントに割り当てる予定。

11－9 福岡支部　　資料（11－9）

報告： 福岡支部 Chair

福岡支部理事会を 1/29 に開催し、福岡支部学生研究奨励賞と福岡支部発表奨励賞を審議し受賞者を決定した。福岡支部も四国・広島支部と共同で YP を設立することを進めており、支部からは 1 名を選出し、設立に向けて動いている。今後の活動計画は 7 月に第 2 回理事会を開催し、次期学生研究奨励賞と発表奨励賞の受賞者審議を行う予定。

■質疑応答（議題 11-6～11-9）

・11－6 関西支部

LRSC Chair : Fellow クラブの話の件は既にお伺いしており、駆け込み寺の件も相談し、お互い協力していこうと NC Chair に連絡をしている。

理事 : 私自身も Fellow クラブのような、Fellow の方に貢献頂く集まりを作った方が良いと思っていた。どのような役割を想定して設立するのか。

関西支部 Chair : 目的は Fellow が集まってどの方を推薦すべきかと議論を行うこと。Fellow であれば経験があるため、具体的なリファレンス等のことを話していきたい。

理事 : 参考にしたく、情報交換をお願いしたい。

JC Secretary : Fellow に関しては支部や Committee 等で取り組んでいるので、連携をお

願いしたい。東京支部では今年 11 名の Fellow 昇格者がいたが、FNC Chair からアンケートを取りたいと案があった。アンケートを取る場合、重複せず全体で行う形式で考えて頂きたい。アンケートの件は LRSC Chair に伝わっているか。

LRSC Chair：伺っている。東京支部のみで行うことを想定していたが、関西支部からも 3 名 Fellow 昇格者がいるので、併せてアンケートを取りたいと思う。

JC Secretary：是非一緒にアンケートを取っていただきたい。

JC Secretary：様々な支部や Committee で会員数増加やハイヤーグレードの増強に取り組んで頂いている。3/7-8 に Life Tech2022 が大阪で開催され、その場で Senior Member や Fellow 昇格、T シャツや EA 関係の宣伝を行った。今年は JC として積極的にブースを設けたいと依頼をし、グッズや案内を展開しようと思う。できれば、カンファレンス開催の地区の支部や Japan Office とも協力しながら取り組んでいきたい。

12. その他　　資料（12）

12－1 Japan Council Outstanding Volunteer Award の新設について　資料（12－1）

報告： MGA ARC Past Chair

メーリングリストを立ち上げ議論を進めて来たが、資料に記載の内容について JC 理事会として承認頂きたく、報告する。まず、本賞を新設すること、新設する Award の Description、Nomination Form については、これも以前に提示した形で進めたい。体制については、メーリングリストで議論しているが、これまでの提案を基本的に了解頂いていると理解しているので、最初の Chair は自身（ MGA ARC Past Chair）が務める案を考えている。Vice Chair、Secretary は未定。Committee メンバーは、選考委員会の仕事がメインとなり、賞の性質を考慮し JC の全体をよく理解している方にメンバーになって頂きたい。Call for Nomination(CFN)を 3 月末に出したい。

12－2 周年記念イベントに関する意見集約と今後の進め方　　資料（12－2）

報告：JC Secretary

LRSC で議論をし、再度支部の方に意見を伺い整理をした。LRSC は、Section 活動の歴史という観点からは、2024 年の JC25 周年を祝うよりは、旧東京支部の周年を祝うことの方が意味があるとの議論をした。2024 年の JC25 周年のイベントは開催せず、2025 年か 2030 年の旧東京支部の周年を祝うことになるが、IEEE のデフォルトが 25 年周期なので、2030 年の旧東京支部 75 周年を全ての支部と一緒に祝すことの方がよいという結論になった。各支部には、単独、複数支部合同は問わないが 25 周年記念を実施頂けると有難い。各支部に再確認の結果、単独開催は、札幌、仙台、関西、広島の 4 支部。東京、信越を除く 3 支部が合同開催との意向。東京支部は旧東京支部 75 周年を一緒に開催することに今回は注力する。今後は、次期幹事会社を中心にタスクフォースを立上げ、各支部の Secretary に入っていただき、どのようなテーマで実施するか、どこが複

数の支部で合同で実施するか、スケジューリングなどの調整を始めたい。

12－3 過去の東京支部 FNC 活動について　　資料なし

報告：LRSC Chair

22 年前の東京支部の理事会資料を確認したので紹介する。

FNC が当時もあり、東京支部内の Fellow、理事、Chapter Chair の 302 名に Fellow 候補者の推薦を依頼し、28 名を選びその方々に支部長名で Fellow の Endorsement Letter を出した。28 名のうち直後に Fellow になった 1 名を除き 27 名のうち 18 名がすぐに昇格し 2002 年の Fellow になった。3 名が 2003 年、1 名が 2007 年に Fellow 昇格。現時点で Fellow になっていない方は 5 名。多くの方が Fellow になった。2002 年の世界全体の昇格率 46%よりも高い 67%の方が短期に昇格された。最近は、30%を切っている。東京支部で支部長の Endorsement を取らずに 2002 年に Fellow になった方は 12 名。日本にとって特別な年となり、過去最高の 41 名の方が日本全体で Fellow にった。このような支部長の Endorsement は東京支部では 2012 年まで実施していた。現在も関西支部、名古屋支部は支部長が Endorsement をしていると HP に記載がある。福岡支部でも実施していると聞いている。こうした取り組みは一定の意義があると考えている。

12－4 R10 Robotics Competition について　　資料（12－4）

報告：R10 WIE Committee Chair

R10 で今年新たな取り組みとして Robotics Competition が開催されることになった。R10 Vice Chair of Technical Activities を中心に動いており、日本からの積極的な参画を呼び掛けられている。Competition には、3 つの Stage がある。Stage 1 は、Section レベルもしくは Council でのもの。各 Section で開催する。5/15 までの期間中にロボット工学、機械工学に関心のある会員が競技する。Stage 1 での優勝者、上位チームについては、Stage 2 として、R10 レベルでオンラインの Competition に参加する。さらに、Stage 3 にて出来れば対面にて最終の Competition をやるという企画。

Stage 1 は、会員獲得のために EA の講演会などと関連付けることが出来る。技術講演会、Hands On などのワークショップ、子供向けのロボットコンテストなども企画することが出来る。R10 では、Fund での支援をする。

日本で Competition に参加してくださいとのことなので EA Coordinator に連絡を取り、日本で企画できそうか検討を開始したところ。YP、SB の皆さんには参加して頂きたいし、各支部の皆様にも協賛、共催などして頂きたいと思っている。日本から参加して欲しいとのことで、ポスターにも日本語表記が入っている。

■質疑応答（議題 12）

・12－1 Japan Council Outstanding Volunteer Award の新設について

JC Secretary：メーリングリストで随時意見交換をしており、反対意見はなかった。次のアクションは 3/31 に Call for Nomination が出るという認識でよいか？

MGA ARC Past Chair：特に反対が無ければその通り次に進めたい。

JC Secretary：コメントがある人は？

→なし

JC Secretary： Call for Nomination へと進めていただきたい。

・12－2 周年記念イベントに関する意見集約と今後の進め方

JC Secretary：支部の一部の方から、JC 25 周年はあまり意味がなく旧東京支部の周年行事に意味があるという意見について、腹落ちしないという意見もあった。基本的には、2030 年の旧東京支部 75 周年を全支部で祝う、その前に 2023 年あたりで各支部が単独あるいは合同で 25 周年を祝うという形にさせて頂きたい。

JC Chair：IEEE は支部が中心であり、JC は支部をサポートする組織であるということで、支部を前面に出し、JC はそれを支える形にする方がよいと LRSC での議論において意見があり、議論の結果、JC としては各支部を支える形で各支部の周年イベントをサポートする形で今回の意思決定に至った。

JC Secretary：タスクフォースを立上げその中で議論をしていくことになる。

MGA ARC Past Chair：東京支部はなぜ単独の 25 周年を実施しないのか。

JC Secretary：東京支部は、旧東京支部から始まったという面もあり 2023-2024 年には別のイベントもあるので、現時点で 25 周年を東京支部で実施するとは言えない。タスクフォースの中で主体となる次期幹事会社の意向も含め決定させて頂きたい。

名古屋支部 Chair：東京支部しかなかった時代を考えると理解はできるが、いま支部の形では並立している筈。旧東京支部の機能のかなりの部分は、今は JC に引き継がれていると理解しているが、旧東京支部 75 周年は JC の 30 周年等と一緒にすれば、JC だから全国レベルで実施するとした方がすっきりとする。過去に存在した旧東京支部の 75 周年と言うよりも、むしろ最初は無かった JC も 30 周年、もっと前の歴史から考えて旧東京支部も 75 周年という扱いで実施してはどうか。JC の周年行事を今後も永遠にやらないというわけではないと思う。今度は JC50 周年でやってもいい。

JC Secretary： 名古屋支部 Chair の意見が受け入れやすい気もした。その方向でタスクフォースにて議論させて頂きたい。

名古屋支部 Chair： JC はサポート部隊とのことだが、サポート部隊があるからこそ活動ができる。今後 JC の重さは重くなっていくと思うのでぜひ検討してほしい。JC を祝う、それは旧東京支部を引き継いだ立派な団体であるという風にやって頂いた方がいい。

JC Chair：今の意見をタスクフォースに反映させる。今の話を聞くと、日本における IEEE 活動 75 周年とした方がいいのかもしれない。

理事：タスクフォースは何を調整するのか。

JC Secretary : 既に検討を開始している支部があり、2023 年開催だと 2022 年の夏くらいから支部の Secretary などに入って頂き、その段階での検討状況を共有いただく。相互に情報交換をして、少しずつ時期をずらしたり同じ時期に一気にやったりというのでも構わないが、その辺の協議をしてもらうのが良いと考えている。

EA Coordinator : 単独開催の支部では、功労者を呼んで表彰したいなどの意図がある場合、JC と一緒だとそのような方を呼びづらい面があるのが単独の理由と聞いた。東京支部の開催が無く JC と一緒に実施するのであれば、漏れてしまう方がいないよう出来ると他の支部との差が生じなく良い。

JC Secretary：タスクフォースに反映させたい。

Past President：支部ローカルで実施するのは理解できるが、それぞれインターネットで接続してオンラインでも実施すればよい。

・12－3 過去の東京支部 FNC 活動について

JC Secretary：LRSC では Fellow 増強の施策について提案も頂いているので、その中でできるところは反映できればと思う。

・12－4 R10 Robotics Competition について

JC Chair：Robotics Competition というとテレビ番組で実施しているものを連想したが、そのようなイメージか。

R10 WIE Committee Chair：部門が 3 つある。モデリングと、リアルにハードを動かすものの学部生向け、それの院生向け。Stage 1 が地域で企画できないと進まない。日本で Stage 1 を実施して皆さんに参加を促すことを始める必要がある。

Past President：医用の鉗子等をモデリングしてシミュレーションなどしているが、イメージが湧かなく難しいのではないか。

R10 WIE Committee Chair：ロボティクス for ヘルスケアとなっているので、テーマとしてヘルスケアとなっている。日本でこの分野でどのくらい集まるか。

EA Coordinator : ヘルスケアは広い意味合いで捉えられると思う。医療だけでなく、日常に根付いているものもヘルスケアに含まれると思う。そのあたり広報して気軽に参加できるように仕立てたい。期間が短いのでご指摘いただいたことも踏まえ分かりやすいフライヤーを作って広報してゆきたい。

R10 WIE Committee Chair：参加対象者は、モデリング・シミュレーションの学部生対象と、ロボットのハードウエアを作る学部生対象のもの、ロボットのハードウエアを作る院生又は卒業から 5 年以内の YP 対象のものとなっている。

MGA ARC Past Chair：JC としてコーディネートするというのであれば、SAC や YP が推進するべきではないか。

R10 WIE Committee Chair：話のきっかけに、EA Coordinator に声をかけているが、YP、SAC など各方面にもこれから声をかけてゆく。

YP Coordinator : 既に私に連絡が来ていて協力させて頂くと答えている。実現可能かどうかを検討する段階だと思う。

SAC Chair： SAC も分野がいろいろあるのと、日本のスケジュール的に厳しい。これから新学期に入るので、4 月から 5 月の頭までは動きにくい。

R10 WIE Committee Chair：非常にスケジュールがタイトなので、そもそも日本でこのスケジュールで出来るのかというところ。

MGA ARC Past Chair：これを実施した場合に JC からの費用負担はどの程度必要になるのか。R10 WIE Committee Chair はどういう立場で参加しているのか？

R10 WIE Committee Chair：費用については、JC への負担は企画次第で、必要があれば審議頂く。R10 としては、若手向けに盛り上げていく STEM 教育を広げていくものの 1 つ。R10 のいろいろなコミッティが連携して実施している。私自身は Competition の実施を広めていくことを R10 の WIE の立場で支援しており、日本でも広めて欲しいとのことなので今回紹介させて頂いた。

WIE Coordinator：良い取組みであり、国内でも盛り上げたいがタイトである。5/15 迄というのが Stage 1 の審査を終えるということであれば、大学のスケジュール、教員の立場から見るともう無理ではないか。

R10 WIE Committee Chair：そもそも実施可能か否か含めての検討だと思うので、日本としては募集に対してアクションを検討したうえでの結論を出せればよい。

[参考] IEEE Japan Council メール審議記録

[参考] 支部別会員数/支部別 Society 会員数の推移

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

Secretary : IEEE Japan Council メール審議は 4 件、支部別会員数/支部別 Society 会員数の推移は資料の通り、Region 10 からのメール連絡は 29 件である。

JC Chair : 議題 6. R10 Meeting 参加報告においても報告があったように SNS での周知というのが重要になってきている。JC でも SNS での周知の仕組みを考えていきたい。SAC の方々と相談しつつ、外部委託も視野に入れ今後 SNS を活用した情報発信を安全に実施することを考えていきたい。

以上